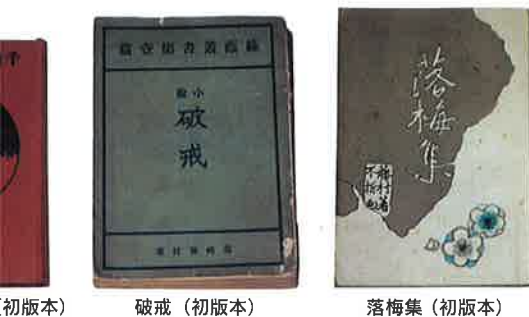


## 藤村記念館

日、小諸義塾及び女子学習舎の関係者を以って組織  
小諸町では、藤村の遺墨、遺品並びに関係資料を  
改養と調査研究等に資する目的のもとに藤村記念館

位置の選定、敷地交渉、寄付金募集、遺品・遺墨の  
東京工業大学教授吉口吉郎博士に設計を依頼し、  
月、高雅で簡素な建物が懐古園に竣工した。

月19日に開館し、翌34年6月、藤村会の寄付に  
多管され、以来小諸市立藤村記念館として運営し、



藤村が馬場裏の住居で愛用したもの



## 藤村と小諸

### ●明治 32 年 (1899)

4月上旬、旧師木村熊二の経営する小諸義塾に国語と英語の教師として赴任。4月下旬、巖本善治の媒酌により函館の網問屋秦慶治の三女冬子と結婚、小諸町馬場裏の士族屋敷跡に新家庭をもつ。

### ●明治 33 年

4月、「旅情」を文芸雑誌「明星」創刊号に発表。5月3日、長女緑が生まれる。8月、「雲」を「天地人」に発表。「千曲川のスケッチ」の初稿が着手されたのもこの頃。

### ●明治 34 年

4月、小諸義塾に女子学習舎が併設される。(木村熊二宅使用) 藤村は「土佐日記」「枕草子」等を講義。8月、第四詩文集「落梅集」を春陽堂より刊行。

### ●明治 35 年

3月31日、次女孝子が生まれる。10月、学生を引率して、八ヶ岳の裾野を回り、甲府、諏訪方面への旅をする。11月「旧主人」「藁草履」を発表。

### ●明治 36 年

1月「爺」を、6月「老嬢」を発表。5月31日小諸義塾創立10周年記念祭挙行。8月、小諸小学校講堂で開かれた国民教育夏季講話会において「ハムレット」の話をする。

### ●明治 37 年

1月「水彩画家」を新小説に、「椰子の葉蔭」を明星に発表。1月、丸山晚霞等と飯山町を訪ねる。4月9日、三女縫子が生まれる。7月「破戒」自費出版の援助を求めて函館の岳父を訪ね、400円の出費を頼む。10月15日、丸山晚霞等と志賀村に神津猛を訪ねる。12月「津軽海峡」を発表。

### ●明治 38 年

3月4日、志賀村に神津猛を訪ね「破戒」完成までの生活費の恩借を頼みに行ったが言えず、翌5日付手紙で依頼し150円を借用する。3月29日、小諸近郊の布引山釈尊寺で義塾教師等による送別会に招かれる。4月29日、小諸義塾を退職し、7年間にわたる小諸生活に別れをつけ、家族と共に上京する。

## 藤村ゆかりの跡

### ●藤村旧栖地

昭和28年4月、有志の発起により小諸町馬場裏の士族屋敷跡に碑を建立、碑面の文字は有島生馬の揮毫である。

### ●大手門

明治27年1月より約1年間、一時ここ大手門の三階を教室に、小諸義塾の授業が行われた。大手門は慶長17年(1612)小諸城主仙石秀久により創建され、桃山時代風の雄大な気宇を持つ。

### ●小諸義塾跡

明治29年4月、町内有志の寄付金により耳取町に洋館二階建の校舎が建設された。塾長は木村熊二。明治39年3月廃校。後、敷地は小諸駅の拡張工事のため構内に入る。昭和63年11月、敷地内に「小諸義塾跡」碑を建立。その向側に平成8年2月「小諸義塾記念館」が開館される。

### ●木村熊二記念碑

懐古園の二の丸石垣の自然石に、塾長木村熊二のレリーフを藤村筆「われらの父木村先生と旧小諸義塾の記念に」の文字を刻んだ碑。彫刻家荻島安二の作。小諸義塾の門弟並びに有志により、昭和11年4月19日除幕式を行う。

### ●藤村詩碑

懐古園内、彼方に浅間山を、前面に千曲川を見下ろす浅間台と呼ばれる地に建つ。自然石に青銅のパネルをはめこんだ碑である。碑面の詩は藤村の自書になる「千曲川旅情のうた」でパネルは高村豊周の作。昭和2年7月24日、旧知未知友門弟等により建碑される。

### ●水明楼

明治31年5月、市内中棚地籍の眺望のよい傾斜地に建てられた木村熊二の書齋。木村熊二の没後遺族が住居としたが、後年小諸市へ寄贈される。



藤村旧栖地に立つ石碑



小諸義塾跡



木村熊二記念碑